

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)^(ホ08)

研究組織 建石徹、朽津信明、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則、秋山純子、芳賀文絵、島田潤、相馬静乃(以上、保存科学研究センター)、水谷悦子(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)ほか

目的 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

成果

1. 第1回博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7月5～9日、受講者16名)。
2. 今年度より基礎的な内容の講習を文化財活用センターが担当し、保存科学・保存修復関連の各論を当所の各研究室が受け持つ形となり、それぞれ基礎コースと上級コースに分かれて実施した。
3. 上級コースでは以下の講義を実施した:文化財の科学調査(分析科学研究室)、文化財IPM・生物被害対策(生物科学研究室)、屋外資料の劣化と保存(修復計画研究室)、保存環境に関する理論と実習(保存環境研究室)、多様な文化財の保存と修復(修復技術研究室)、修復材料の種類と特性(修復材料研究室)、文化財修理の実務、博物館の防災。
4. 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。



多様な文化財の保存と修復に関する講義

文化財の収集・保管に関する指導助言^(シ)

研究組織 塩谷純、二神葉子、江村知子、小林達朗、小林公治、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子(以上、文化財情報資料部)

目的 これまでに蓄積された文化財に関する調査・研究の成果を生かし、国や地方公共団体からの要請に応じて、専門的な見地からその収集・保管等に関する指導助言を行うことにより、文化財保存の質的向上に貢献する。

成果

1. 文化庁アートプラットフォーム事業によるデータベース「日本の画廊調査 1945年以降(仮称)」の公開に向けた効率的な画廊情報の収集支援
2. 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員
3. 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員
4. 国際交流基金・欧米ミュージアム基盤整備支援事業評価委員
5. 熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言
6. 八尾市史の編纂に関する助言
7. 田辺市立美術館での講演
8. 和泉市立久保惣記念美術館での講演
9. 美術史学会への『美術史』ウェブ公開にむけての情報提供・助言
10. 文化財調査に関する協力・助言
茨木市立文化財資料館、春日大社、岐阜市歴史博物館、慶應義塾大学ミュージアム、角屋もてなしの文化美術館、甲賀市教育委員会、東京大学総合図書館、徳川美術館、南蛮文化館、広島県立美術館、大和文華館、和歌山県立博物館、田辺市立美術館、逸翁美術館、馬事文化財団、和泉市立久保惣記念美術館

無形文化遺産に関する助言^(ム)

研究組織 早川泰弘(部長)、石村智(音声映像記録研究室長)、久保田裕道(民俗文化財研究室長)、前原恵美(無形文化財研究室長)ほか

目的 これまでに蓄積された無形文化遺産に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、無形文化遺産の継承に資する。

成果

これまでに蓄積された無形文化遺産に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から指導・助言を行うことにより、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術等の無形文化遺産継承に貢献した。

助言の依頼は国(11件)、地方自治体(15件)、関連団体(6件)の合計31件で、以下の通りである。

○国への助言

- 文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言1件
- 文化庁への文化審議会無形文化遺産部会等に関する助言2件
- 文化庁への伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における当該調査及び助言1件
- 文化庁への工芸技術記録映画製作監修委員としての助言1件
- 文化庁への審査に関する助言5件
- 文化庁への調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言1件

○地方自治体への助言

- 山形県への文化財保護審議会・文化財保存活用大綱策定作業部会に関する助言2件
- 山梨県への文化財保護審議会に関する助言1件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言1件

- 千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言1件
- 東京都への東京都民俗芸能大会実行委員会に関する助言1件
- 島根県への古代文化センターに関する助言1件
- 沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言1件
- 静岡市への文化財保護審議会・民俗文化財調査に関する助言3件
- 武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言1件
- 草津市への青花紙保存継承懇話会専門家委員としての助言1件
- 京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議に関する助言1件
- 西条市への石鎚黒茶委員会に関する助言1件
- 岩手県文化財愛護協会への助言1件

○関連団体への助言

- 国立歴史民俗博物館への共同研究への助言2件
- 日本芸術文化振興会への国立劇場文化デジタルライブラリーに関する助言1件
- 公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言1件
- 一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画に関する助言1件
- 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞に関する助言1件

文化財の虫菌害に関する調査・助言^(ホ)

研究組織 佐藤嘉則、島田潤、小野寺裕子、矢花(篠崎)聡子、岡部迪子、建石徹(以上、保存科学研究センター)

目的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

成果

1. これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助

言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

2. 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博

物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。



木造建造物の甲虫被害

3. 対応件数は合計で36件あり、電話、電子メール、WEB会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い現地の問題解決に努めた。
4. 相談内容は、虫菌害の同定相談から殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、屋外の木造建造物の甲虫害、遺構や古墳などでのカビ発生、藻類の発生など生物種を問わず多岐にわたる相談があった。特に木造建造物の甲虫害については相談件数が多く、一年を通して対応が必要な案件もあった。
5. 現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を5件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

文化財の修復及び整備に関する調査・助言^(ホ)

研究組織 朽津信明、建石徹、早川典子、倉島玲央、芳賀文絵、中村舞(以上、保存科学研究センター)、中山俊介(特任研究員)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

成果

1. 令和3年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。
2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝白杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、国宝東照宮東西廻廊、国宝キトラ古墳壁画、国宝教王護国寺五重塔、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、史跡吉見百穴、史跡築瀬二子塚古墳、史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡、重要文化財通潤橋、重要文化財旧志免鉱業所竪坑櫓、重要文化財氷川丸、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財奥州御島頼賢碑、重要文化財祇園橋、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真(鎌倉芳太郎撮影)、重要文化財松浦武四郎関係資料、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財祇園橋、重要文化財輪王寺相輪櫓、重要文化財那谷寺本堂、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財金剛峰寺奥院経蔵、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、熊本県内被災古墳。

首里城、川崎市民ミュージアム、東京都第五福竜丸、長崎県史跡日本二十六聖人殉教地、富山市大山恐竜足跡化石群、栃木市星野遺跡、航空協会航空関連紙資料、東京都公文書館所蔵資料、智積院建造物建具彩色修理。



白杵磨崖仏での接着剤選定試験

文化財の材質・構造に関する指導・助言^(ホ)

研究組織 犬塚将英(保存科学研究センター)、早川泰弘(副所長)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果

令和3年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラによる材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先は以下の通りである。

1. 材質調査

- 板絵(法明寺)
- 画材(秋田県立近代美術館)
- 建造物(伊豆の国市)
- 日本画(絵金蔵保存会)
- 歴史資料(高萩市)
- 漆工品(東慶寺)
- 日本画(筑波大学)
- 能装束(関市(東京国立博物館寄託品))
- 日本画(法華寺)
- 漆工品(東京国立博物館)
- 能装束(関市)
- 青銅製資料(多治見市)
- 工芸品(札幌大学)
- 山車の装飾部材(那須烏山市)
- 目地材(目黒区)



日本画の材質調査

2. 構造調査

- 甲冑(刈谷市)
- 骨壺(佐倉市)
- 考古資料(明治大学)
- 漆工品(東慶寺)
- 甲冑(日本甲冑武具研究保存会)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言^(ホ)

研究組織 秋山純子、建石徹(以上、保存科学研究センター)、早川泰弘(副所長)、水谷悦子(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)、吉田直人、間淵創(以上、保存科学研究センター併任、文化財活用センター)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成果

1. 国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査の相談窓口は令和元年度より文化財活用センターに一本化された。
当所では、公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、空調設備のない神社での温湿度計測を行い、温湿度環境の状況把握と環境改善のため

の検討を行った。空気質の問題がある展示ケースや収蔵庫において、空気清浄機の効果や換気方法の検討などを行った。美術工芸品の保管環境だけでなく、有形民俗文化財の保管環境に関して、現場の状況確認を行った。

2. 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒による文化財への影響が懸念されたため、文化庁・文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターの3者が協力し、対応に当たった。博物館、美術館、文書館等の展示室や収蔵庫における消毒につい

ての対処の仕方や換気などについてそれぞれの状況に応じた助言を行った。

文化庁主催の公開承認施設会議で「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業に係る対応について」と題して報告し、博物館等における消毒に関する質問に回答した。

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進^(ホ)

研究組織 朽津信明、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史、前川佳文（以上、文化遺産国際協力センター）、渡邊尚恵（東京藝術大学）

目 的 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進

- 東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

成 果

緊急事態宣言中はオンライン講義を中心にを行い、解除後には対面講義を中心に教育を進めた。

また、副査として博士論文の審査にも積極的に加わった。

1. 今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位

朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 16人（聴講1人）

修復計画論（前期、木曜1限） 2単位

朽津信明・安倍雅史・前川佳文 5人

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位

早川典子・前川佳文 6人

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位

犬塚将英・佐藤嘉則 10人

文化財保存学演習

講師：前川佳文

「古代より現代に伝わる 壁画技法の魅力」

日時：5月11日（火） 13:00～17:30 18人

2. 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

3. 博士審査副査 朽津信明、前川佳文



日本画の材質調査